

I 認知症への理解を深めるための普及・啓発

○認知症サポーター養成講座

- ・認知症サポーターが増えるよう地区毎に出前講座を実施し全地区を2巡したため、平成 28 年度からは地域からの要望に応じて、自治会や民間事業所、大学、ボランティア団体等に実施しています。
- ・関西医療大学の協力のもと、初めて小学校（小学 5 年生）で講座を開催し、子どもにも分かりやすい内容を踏まえながら、地域全体で認知症の方やその家族を見守ることができる体制づくりを推進しています。
- ・サポーターが実際に地域で活動できるよう、地域の関係機関と連携しながら、認知症カフェ等の活動の場所の充実にも努めています。
- ・開催数は9回、サポーター養成者数 289 名、延べ 2,671 名



II 認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の連携

○認知症ケアパスの周知

認知症と疑われる症状が発生したときや認知症の人を支える場合に、どのような支援を受ければいいのか理解できるよう、状態に応じた適切な相談対応や医療、介護サービスの提供の流れを記載した「認知症ケアパス」を作成し、相談対応時はもちろん、認知症カフェや認知症サポーター養成講座等の認知症関連事業を行っている際に活用し、ケアパスをもとに認知症施策事業の啓発活動を行っています。



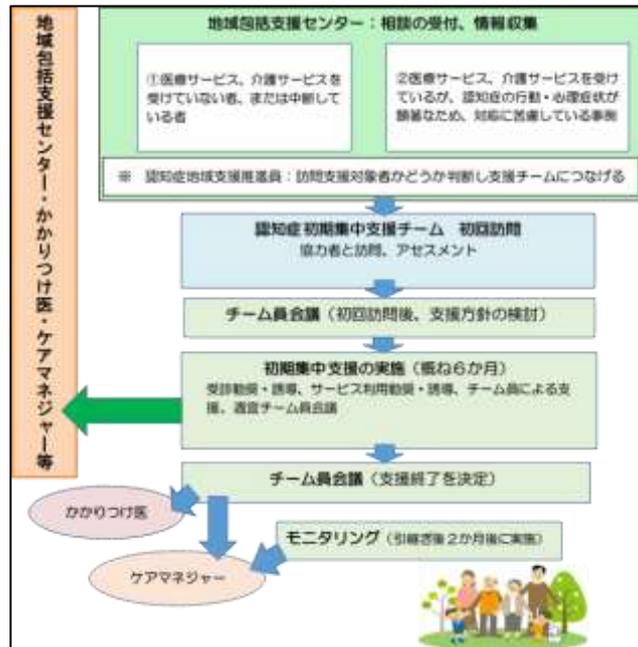
認知症ケアパス	認知症の疑われる症状が起きたとき	認知症の疑われる症状が疑われるとき	認知症の疑われる症状が疑われるとき	認知症の疑われる症状が疑われるとき	認知症の疑われる症状が疑われるとき
認知症の疑われる症状が疑われるとき	認知症の疑われる症状が疑われるとき	認知症の疑われる症状が疑われるとき	認知症の疑われる症状が疑われるとき	認知症の疑われる症状が疑われるとき	認知症の疑われる症状が疑われるとき
認知症の疑われる症状が疑われるとき	認知症の疑われる症状が疑われるとき	認知症の疑われる症状が疑われるとき	認知症の疑われる症状が疑われるとき	認知症の疑われる症状が疑われるとき	認知症の疑われる症状が疑われるとき
認知症の疑われる症状が疑われるとき	認知症の疑われる症状が疑われるとき	認知症の疑われる症状が疑われるとき	認知症の疑われる症状が疑われるとき	認知症の疑われる症状が疑われるとき	認知症の疑われる症状が疑われるとき
認知症の疑われる症状が疑われるとき	認知症の疑われる症状が疑われるとき	認知症の疑われる症状が疑われるとき	認知症の疑われる症状が疑われるとき	認知症の疑われる症状が疑われるとき	認知症の疑われる症状が疑われるとき
認知症の疑われる症状が疑われるとき	認知症の疑われる症状が疑われるとき	認知症の疑われる症状が疑われるとき	認知症の疑われる症状が疑われるとき	認知症の疑われる症状が疑われるとき	認知症の疑われる症状が疑われるとき
認知症の疑われる症状が疑われるとき	認知症の疑われる症状が疑われるとき	認知症の疑われる症状が疑われるとき	認知症の疑われる症状が疑われるとき	認知症の疑われる症状が疑われるとき	認知症の疑われる症状が疑われるとき
認知症の疑われる症状が疑われるとき	認知症の疑われる症状が疑われるとき	認知症の疑われる症状が疑われるとき	認知症の疑われる症状が疑われるとき	認知症の疑われる症状が疑われるとき	認知症の疑われる症状が疑われるとき
認知症の疑われる症状が疑われるとき	認知症の疑われる症状が疑われるとき	認知症の疑われる症状が疑われるとき	認知症の疑われる症状が疑われるとき	認知症の疑われる症状が疑われるとき	認知症の疑われる症状が疑われるとき
認知症の疑われる症状が疑われるとき	認知症の疑われる症状が疑われるとき	認知症の疑われる症状が疑われるとき	認知症の疑われる症状が疑われるとき	認知症の疑われる症状が疑われるとき	認知症の疑われる症状が疑われるとき

## ○認知症初期集中支援チーム

- ・認知症初期集中支援チームは、認知症サポート医や作業療法士、看護師、精神保健福祉士、介護福祉士の専門職で構成された2チームで活動しています。
- ・認知症地域支援推進員は、MCIを含めチームでの支援対象者かどうか判断し、チームへの支援に繋がっています。また、チーム員会議で、地域包括支援センターやケアプランセンターで対応している認知症相談のケース検討を行うことで、地域の現状把握や認知症施策事業のネットワーク構築にもつながっています。また、チーム員とスムーズに連携できるようにICTも活用しています。

＜H30年度認知症初期集中支援チーム活動状況＞

- ・支援者数：4件
- ・チーム員会議数：8件
- ・訪問数：9件



## Ⅲ 若年性認知症の人やその家族への支援

若年性認知症については、早期発見・早期対応のための普及啓発や若年性認知症の方やその家族が交流できる認知症カフェ等の居場所づくり、若年性認知症の特性に配慮した社会参加支援等の相談支援の推進に努めています。

## Ⅳ 認知症の人の介護者への支援

### ○認知症初期集中支援チーム

周囲の人が認知症に対する誤った知識を持っていることにより、支援が困難となっている場合もあります。家族を支援することで対象者の生活の質の改善にもつながるため、家族の精神的身体的な負担の軽減と認知症について正しい理解が得られるように支援を行っています。

### ○認知症カフェ（ひまわりカフェ）

・認知症の方やその家族、専門職、認知症に関心のある方など、地域の方々気軽に集い、悩み事の相談や情報交換等を通じて孤立予防や介護負担の軽減を図ることができる集いの場として「ひまわりカフェ」を行っています。

・地域住民が地域の身近な場所で利用できるように、「ひまわりカフェの立ち上げ支援」を推進しており、ひまわりカフェに取り組む団体が2団体から8団体に増えました。

- ・ひまわりカフェの内容：カフェ、血圧や血管年齢等の測定、相談対応、物忘れ度チェックや回想法体験等のイベント
- ・ひまわりカフェに取り組む団体数：8団体（ボランティア団体、病院、薬局、ボランティア団体等）  
※ 定期開催に向けて後方支援中の団体も含む。
- ・開催数：5回
- ・参加者：226名



## V 認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくり

### ○徘徊模擬訓練

- ・認知症を正しく理解し、道に迷っている時の本人の気持ちに配慮した声かけや、できるだけ早く安全に保護できるように日常的に実働できる対応方法について学び、また、地域でのつながりをもってもらうことで、認知症の方とその家族を地域全体で支え、見守る地域づくりを目的として実施しています。
- ・地域での見守り体制の構築をねらいに、地域や地区単位で実施しています。
- ・開催数：1回



### ○徘徊高齢者等 SOS ネットワーク

- ・徘徊により行方不明になった際に、地域で協力して早期発見・保護を行うため、住民や関係機関が相互に連絡調整を行うネットワークで、行方不明者が発生した時には、FAXや電子メールを用いて情報共有し、早期発見・保護につなげられるようネットワーク体制の構築に努め、必要な場合には、近隣市町との連携も行っています。
- ・啓発活動を行い、少しずつ登録者と協力機関数が増えています。
- ・登録者：32件
- ・協力機関：125件
- ・配信件数：2件

### ○認知症カフェ（ひまわりカフェ）

### ○認知症施策検討委員会

- 地域において継続的な認知症体制を確立していく目的で、認知症施策について提言を行う「認知症施策検討委員会」を年に2回程度、開催しています。
- 委員：認知症サポート医、歯科医師代表、薬剤師代表、ケアマネジャー代表、医療ソーシャルワーカー代表、理学療法士代表、介護者（家族）の会代表、関西医療大学、認知症地域支援推進員